

がん患者と家族に明るい希望と勇気を与える情報誌

がん治療最前線

7
2007

放射線
治療
特集

がん放射線治療の
最近の進歩と今後の展望

放射線化学療法で
大きく変わったがん治療

緩和ケアとしての放射線治療

がん医療最前線 日本発「ガラス化保存法」の確立

がん治療前の卵子凍結保存で
将来の出産が可能に

特別企画

がん患者と家族のこころ

がん性うつ病、見逃していませんか？

“患者が薬を選択する時代”の抗がん剤の選び方

分子標的薬の実力は？

—正しい理解のために—

新・がん基礎講座「前立腺がん」

セカンドオピニオン相談室「前立腺がん」

がん放射線治療の最近の進歩と今後の展望

北海道がんセンター放射線科 西尾 正道 6

大特集

放射線化学療法で大きく変わったがん治療

愛知県がんセンター放射線治療部長 不破 信和 12

緩和ケアとしての放射線治療

東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部長 中川 恵一 16

特別企画

がん患者と家族のこころ

がん性うつ病、見逃していませんか？

埼玉医科大学国際医療センター 大西 秀樹 20

“患者が薬を選択する時代”の抗がん剤の選び方

国立がんセンター中央病院副院長 笹子 三津留/胃科長 島田 安博 24

注目記事

知っておけば怖くない 新・がん基礎講座「前立腺がん」

監修/関東中央病院副院長 石坂 和博 28

あなたの笑顔が好きです 第9回 34

分子標的薬の実力は？ -正しい理解のために- 39

がん薬物療法専門医誕生から1年を経て -優秀な人材をがん医療の現場に- 42

がん医療最前線/第39回

日本発「ガラス化保存法」の確立

がん治療前の卵子凍結保存で将来の出産が可能に

加藤レディスクリニック 先端生殖医学研究所代表 桑山 正成 44

アバスチンの効果増強を考える

第1回 アバスチンとサリドマイド

統合医療ビレッジ理事長 星野 泰三/統合医療ビレッジ統括院長 嶋本 隆司 51

セカンドオピニオン相談室「前立腺がん」

横浜南共済病院泌尿器科部長 池田伊知郎 71

チーム・ウィズ・ザ・ペイシエント

神奈川県立がんセンター泌尿器科 三浦 猛 81

連載記事

メディカルニュースダイジェスト	4
こころの悩み相談室	66
ちょっと役立つホームページ 子パンダ.Com 第9回	68
キラめくこの人に聞きました	74
一日一笑	86

連載講座

くさくさのじかん	
ビレッジ式ケアサポート	55
こころとからだをいたわるセラピー⑦「アートセラピー」	57
ストレッチ&リラクゼーション②	
「腰周りを引き締める」	60
がんに打ち勝つ食事療法 第6回	63

お知らせ

本の紹介	88	バックナンバー/友の会のお知らせ	92
みんなのひろば	89	問い合わせ先一覧	93
イベントインフォメーション	91	次号予告	94

知りたいことがすぐわかる！早引きインデックス

●がん治療関連情報

<がん全般> がん放射線治療の最近の進歩と今後の展望	6	アバスチンの効果増強を考える 第1回 アバスチンとサリドマイド	51
放射線化学療法で大きく変わったがん治療	12	<胃がん> “患者が薬を選択する時代”の抗がん剤の選び方	24
分子標的薬の実力は？ -正しい理解のために-	39	<前立腺がん> 知っておけば怖くない 新がん基礎講座「前立腺がん」	28
がん薬物療法専門医誕生から1年を経て -優秀な人材をがん医療の現場に-	42	セカンドオピニオン相談室「前立腺がん」	71
日本発「ガラス化保存法」の確立 がん治療前の卵子凍結保存で将来の出産が可能に	44	チーム・ウィズ・ザ・ペイシエント	81
		<疼痛治療・緩和医療> 緩和治療における放射線療法	16
		がん患者と家族のこころ がん性うつ病、見逃していませんか？	20

「チームケアを成功に導く ソーシャルワーカーの交渉術」

ソーシャルワーカーの交渉術編集委員会（編）／日本医療企画／2625円



— チームケア成功のカギは「協調的交渉」にあり！ —

介護施設内で「相談職員」という立場にあるソーシャルワーカー。彼らは、利用者、家族、職員、施設長等からの要望、クレームの個別対応に日々追われている。本書は、**ソーシャルワーカーの為の一書**であるが、様々な事態を打破するキーワードを「交渉」とし、ソーシャルワーカーの職務のあり方については「個別対応だけでなく、複数間の利害関係の調整である」とすること等、病院関係者にとっては、ソーシャルワーカーの立場や仕事を理解する為に役立つだろう。また、ソーシャルワーカーの入職直後（1～3年）、中堅前期（4～6年）、中堅後期（7年～）と職業ステージを3つに分け、各段階で遭遇する「交渉」を事例を通して展開するなど、教育者、施設長、コンサルタント、介護職、ケアマネジャー、人事担当者にとっても参考になる。それぞれの立場から「ソーシャルワーカーに課せられる交渉」を多角的にとらえ、「交渉学」のエキスパートによる、「（協調的）交渉のエッセンス」についての解説も必見。

「がん、その時どうする！ 生死を分ける5つの分岐点」

笠岡千孝（編）／現代書林／1785円

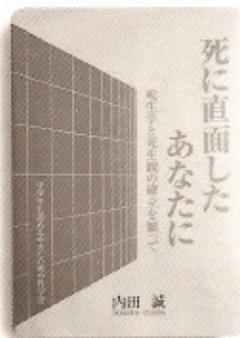


— 生きるための「最善の選択肢」を明らかにする —

「あなたはがんという病気をどれくらい知っていますか？がんという疾病に対してどのように対峙していけばいいと思いますか？」がんは死亡率第1位、日本国民の国民的な疾病といっても過言ではない。そんながんに対して生死を分ける心構えとして、「予防」、「検診」、「自覚症状の察知」、「治療法の選択」、「予後の生活」の5つにポイントを置いて、36にわたる部位ごとにがんを細かく分析。それぞれのがんの特徴から患者がその時にどのような行動を起こせばよいか分かる。本書ではよく知られているがんから舌がんや耳のがんといった珍しいがんまでが載っている。これだけの種類のがんが載っている本はとて珍しいのではないだろうか。罹患率の高いがんについては大きく取り扱っており、チェックリストもついているので簡単な自己診断も可能だ。「がん＝死」だったのは今は昔。今では早期発見で治療することが可能である。読めば生への道を迷わず向かっていくことができるはずだ。正しい判断で「がん≠死」「がん→生」を目指そう。

「死に直面したあなたに 死生学と死生観の確立を願って （中学生も読めるやさしい死の哲学書）」

内田誠（著）／定価1680円



— 死とは何かに答える、やさしい死の哲学書 —

どうやって自分の死を納得し、それを受け入れることができるのか…？本書は様々な方向から「死とは何か」を考察することにより、死の不安とその解消を試みた死の哲学書である。本書の第一章では、少年五郎がいついかなる時に死に直面しても死を納得して迎えられる「瞬生五十年」というある思想（考え方）に到達するまでの不安と恐怖の記録が語られる。そしてそれはハイデガーの『存在と時間』の中の「死」の論議で一致する。他にも哲学史上の死・実存・存在の問題、ハイデガーの『存在と時間』の現代的意味などが、中学生でもわかるようやさしく解説されている。病院で生まれ病院で死をむかえることが当たり前となった現代の日本。「死」が日常や人々の意識から遠ざかってしまったことに警鐘を鳴らす方々も多い。「がん＝死」ではないが、がんは死と向き合い、人生をいかに生き、いかに締めくくるとかを考える病気であるといえる。普段から死生観を養うことが、死の不安と恐怖を乗り越えるための一助となるのかもしれない。

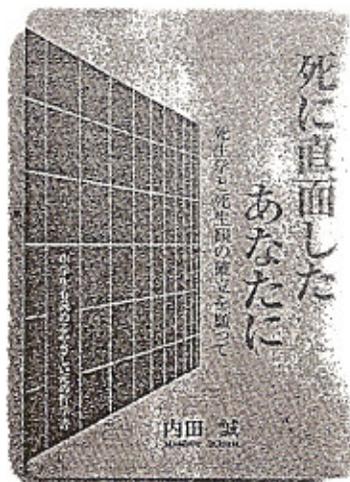
がん患者と家族に明るい希望と勇気を与える情報誌

がん治療最前線



— 「がん治療最前線」より —

「死に直面したあなたに 死生学と死生観の確立を願って
（中学生も読めるやさしい死の哲学書）」 内田誠（著）／定価1680円

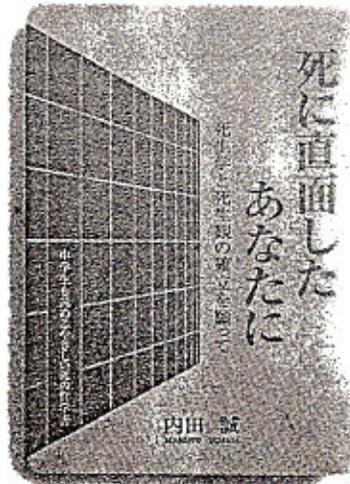


— 死とは何かに答える、やさしい死の哲学書 —

どうやって自分の死を納得し、それを受け入れることができるのか…？ 本書は様々な方向から「死とは何か」を考察することにより、死の不安とその解消を試みた死の哲学書である。本書の第一章では、少年五郎がいついかなる時に死に直面しても死を納得して迎えられる「瞬生五十年」というある思想（考え方）に到達するまでの不安と恐怖の記録が語られる。そしてそれはハイデガーの『存在と時間』の中の「死」の論議で一致する。他にも哲学史上の死・実存・存在の問題、ハイデガーの『存在と時間』の現代的意味などが、中学生でもわかるようやさしく解説されている。

病院で生まれ病院で死をむかえることが当たり前となった現代の日本。「死」が日常や人々の意識から遠ざかってしまったことに警鐘を鳴らす方々も多い。「がん＝死」ではないが、がんは死と向き合い、人生をいかに生き、いかに締めくくるかを考える病気であるといえる。普段から死生観を養うことが、死の不安と恐怖を乗り越えるための一助となるのかもしれない。

「死に直面したあなたに 死生学と死生観の確立を願って
(中学生も読めるやさしい死の哲学書)」 内田誠(著) / 定価1680円



—死とは何かに答える、やさしい死の哲学書—

どうやって自分の死を納得し、それを受け入れることができるのか…？本書は様々な方向から「死とは何か」を考察することにより、死の不安とその解消を試みた死の哲学書である。本書の第一章では、少年五郎がいついかなる時に死に直面しても死を納得して迎えられる「瞬生五十年」というある思想(考え方)に到達するまでの不安と恐怖の記録が語られる。そしてそれはハイデガーの『存在と時間』の中の「死」の論議で一致する。他にも哲学史上の死・実存・存在の問題、ハイデガーの『存在と時間』の現代的意味などが、中学生でもわかるようやさしく解説されている。

病院で生まれ病院で死をむかえることが当たり前となった現代の日本。「死」が日常や人々の意識から遠ざかってしまったことに警鐘を鳴らす方々も多い。「がん＝死」ではないが、がんは死と向き合い、人生をいかに生き、いかに締めくくるかを考える病気であるといえる。普段から死生観を養うことが、死の不安と恐怖を乗り越えるための一助となるのかもしれない。